

福祉みやぎ

2019 1 月号
vol.601

福祉みやぎ

vol.601

平成31年

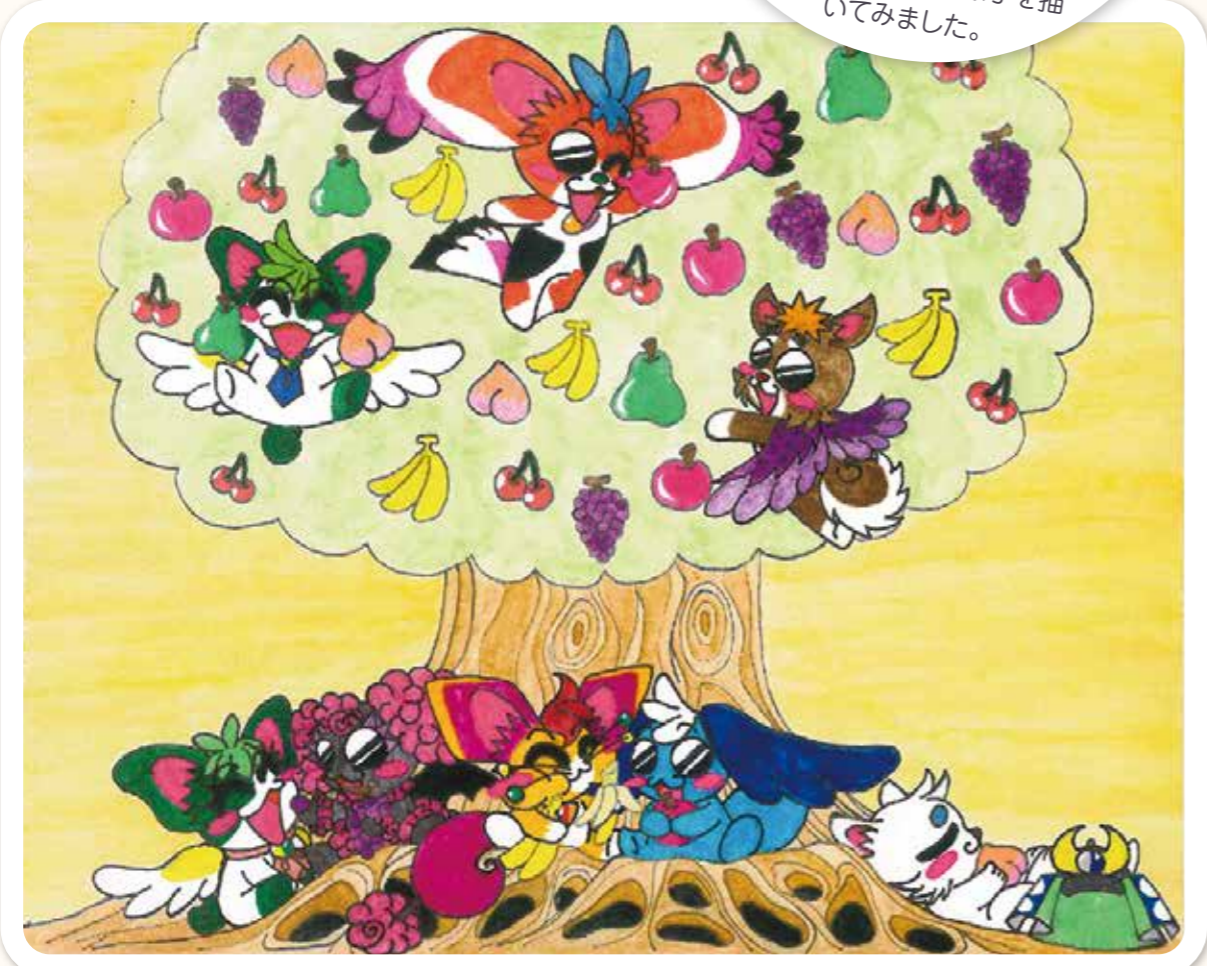
1月15日

発行

編集・発行/社会福祉法人宮城県社会福祉協議会 〒980-0011 仙台市青葉区上杉1-2-3 TEL 022-225-8476(代) FAX 022-268-5139
印刷/株式会社ソノベ 奇数月15日発行 URL <http://www.miyagi-stk.net>

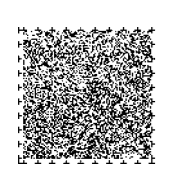
作品
夢の世界の動物たちと果物の樹
作者 就労継続支援B型事業所 ころや
宮城県仙台市青葉区木町10-3
作者名 ネコレイト☆モンキー

夢の動物たちが果物の樹の実をみんなで取り分け合っておいしそうに楽しく食べている様子を描いてみました。



CONTENTS (主な内容)

- P2 特集
今の時期に注意したい感染症
- P4 Heart&Works
ねんりんピック富山2018!!
- P6 ひと・まち・ころや
- P7 キラリ☆仕事人
- P8 復興宮城のいま
- P10 ちいきをつなぐ
- P11 みやぎいきいきシニアだより
こんなことやってます!
- P12 県社協掲示板



県社協掲示板

温かい真心をありがとうございます

下記の方々から本会に寄附金をいただきました。温かい真心に感謝申し上げます。(平成30年12月18日現在)

平成30年10月5日	株式会社ブリッジさまより	社会福祉事業のために……………	25,000円
平成30年10月17日	七十七証券チャリティーコンサート参加者一同さまより	法人のために……………	42,250円
平成30年11月5日	株式会社ブリッジさまより	社会福祉事業のために……………	25,000円
平成30年11月21日	トヨタハートフルプラザ仙台さまより	法人のために……………	27,700円
平成30年12月5日	株式会社ブリッジさまより	社会福祉事業のために……………	25,000円
平成30年12月13日	匿名さまより	法人のために……………	100,000円
平成30年12月18日	JXTGエネルギー労働組合東北支部さまより	県社協で運営している施設のために…	3,000円

第64回 宮城県社会福祉大会が開催されました!

平成30年11月7日に第64回宮城県社会福祉大会が仙台サンプラザホールにて開催され(主催:宮城県社会福祉協議会、宮城県共同募金会、宮城県民生委員児童委員協議会、宮城県身体障害者福祉協会、宮城県手をつなぐ育成会、宮城県里親なごみの会、宮城県障がい者家族連合会、共催:宮城県)、約1,000余名が参加されました。

社会福祉関係者が一堂に介し、第一部では永年の功績を称え948人が表彰され、第二部では『明るく・楽しく・あきらめない生き方』と題し、辻井いつ子さんの記念講演が行なわれました。



平成30年度福祉施策に対する要望書の回答をいただきました

宮城県社会福祉協議会では会員を募集しています

平成30年9月18日に宮城県へ提出した、国及び宮城県に対する要望書の回答が平成30年11月20日付けで届きました。届いた回答は、宮城県社会福祉協議会ホームページでご覧いただけます。

本会では活動の主旨にご賛同いただき、地域福祉の推進にご協力いただける団体または個人の会員を募集しています。詳細は本会ホームページ(<http://www.miyagi-stk.net>)よりご覧いただけます。

宮城県内の福祉施設・介護事業者向けの総合補償制度

宮城県地域福祉総合補償制度をご利用下さい

ポイント1
社会福祉協議会の会員である社会福祉施設、介護サービス事業者が加入できます。

ポイント2
地元宮城県で加入手続き・事故対応・その他アフターフォローを行いますので安心です。

ポイント3
団体制度のため、有利な団体割引が適用されます。(一部適用外)

ご不明の点は
お問合せください!

お問合せ 社会福祉法人宮城県社会福祉協議会 TEL022-225-8476
三井住友海上火災保険株式会社 TEL022-221-3171
株式会社オンワード・マエノ TEL022-762-9915

※この制度の各補償は宮城県社会福祉協議会が保険会社と締結した保険約款により行います。

今の時期に注意したい感染症

宮城県保健環境センター 微生物部
 席主任研究員 植木 洋

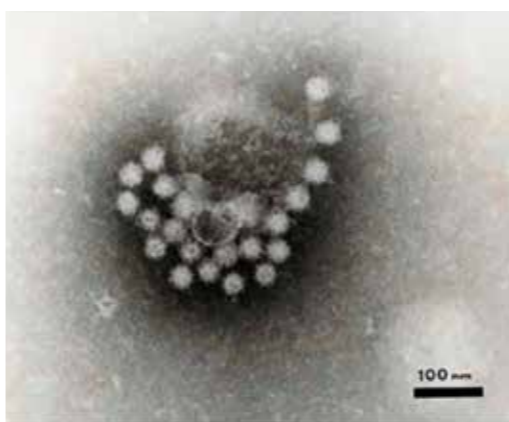
本格的な冬を迎えインフルエンザやノロウイルスによる感染性胃腸炎などの感染症が流行する時期となっています。冬季になぜこのような感染症が流行するかは明らかではありませんが、気温が低くなることや空気が乾燥することは特定のウイルスが感染性を維持するには好都合のようです。

本稿ではインフルエンザとノロウイルスを中心にウイルスの特徴や感染予防を考えてみたいと思います。



ノロウイルス

ノロウイルスは主に冬季に行う感染性胃腸炎の主な原因となる病原体です。約38nmの大きさの球形ウイルスで、仮にこのウイルスがグリーンピース(約6mm)の大きさだと仮定した場合、身長170cmのヒト



ノロウイルス電子顕微鏡写真(宮城県保健環境センター)

は仙台と埼玉県の熊谷間の距離(約270km)に相当します。いかにウイルスが小さいかお分かりいただけると思います。

ノロウイルスによる感染経路は、基本的には経口感染です。ノロウイルスに汚染された食品や水を飲食することで食中毒となるばかりでなく、患者の吐物や排泄物の処理の際に誤って感染することもあります。過去に県内で集団発生した事例では入浴が感染拡大の原因と推定され、塩素系消毒剤で入浴施設を十分に消毒した結果、患者の発生が減少したケースがありました。

ノロウイルスは酸や乾燥に強く、環境中でも感染性を長期間維持しています。ウイルスの感染性を失くすためには85~90℃、90秒以上の加熱や、次亜塩素酸ナトリウムなどによる消毒が有効です。ノロウイルス感染者の排泄した糞便および吐物は、感染性ウイルスが高濃度に存在するものとして十分注意して処理することが重要です。また、ノロウイルスは感染しても必ずし

も皆が発症するとは限りません。感染しても発症しないことを不顕性感染と言いますが、ノロウイルスの不顕性感染者もウイルスを排泄しているため、このことがノロウイルス感染拡大の原因の一つとなると考えられています。

ノロウイルスに感染しないために

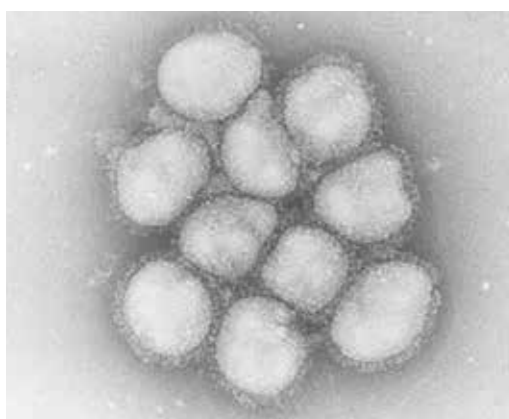
ノロウイルスは感染性が非常に高く10個から100個程度で感染が成立すると言われており、患者便(不顕性感染者も含む)や吐物によるウイルス汚染の対応は二次感染を防ぐ上でも重要になります。糞便や吐物の付着物の処理には、まずウイルスの量を減らすために付着物や汚染物を拭き取り、加熱が可能な場合には熱湯での煮沸やスチームアイロン等の使用、加熱が出来ない場合は1,000~5,000ppmの次亜塩素酸ナトリウム(市販の有効塩素濃度6%≒60,000ppm)の消毒薬・漂白剤を用いる場合、ペット

ボトル500mlの水に対しキャップ2杯(約10ml)で塩素濃度約1,200ppmになる)に漬けてから洗浄するなどの方法が有効です。

痛など全身症状を伴い、その症状の激しさから他のウイルスなどを原因とした「一般のかぜ症候群」とは異なり「重くなりやすい疾患」とされています。

インフルエンザウイルス

インフルエンザウイルスによる急性呼吸器疾患であるインフルエンザは、くしゃみ、咳、鼻汁、咽頭痛、痰などの呼吸器症状に加え発熱、全身倦怠感、頭痛、関節



インフルエンザウイルス電子顕微鏡写真(国立感染症研究所)

インフルエンザウイルスは感染者の咳やくしゃみを介して感染します。一般に潜伏期間は1~4日、急に頭痛、悪寒、咳や発熱の症状が出現しその後、上気道症状、倦怠感、関節痛、筋肉痛などの症状が認められます。特に、高齢者、乳幼児または基礎疾患を持つヒトでは呼吸器合併症を起すこともあります。インフルエンザウイルスは感染してから約1週間程度排泄が続き、この期間の感染者の咳やくしゃみにはインフルエンザウイルスが含まれ

るため大流行になります。

インフルエンザの予防と治療

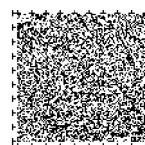
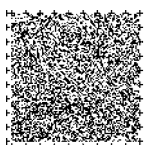
インフルエンザウイルス感染の予防はワクチンが用いられます。ワクチンは症状の軽減に有効ですが、免疫の持続は短いことが指摘されています。

治療薬としてこれまでに使用されていた、タミフル、リレンザ、イナビル他に今年からゾフルーザが新たに保険適用になりました。この薬は吸入タイプのイナビルと同様に1回の服用で治療が完了します。しかし、他の抗インフルエンザウイルス薬と同様に、発症後48時間を経過すると有効性が減少します。

ウイルス感染を予防するには

ウイルス感染症の予防としてよく言われるのが「手洗い」です。手の「しわ」にはウイルスが何千個と入ることができ、隙間があるため、手が汚染されていると触れた物全てに汚染が広がります。そこで、手についたウイルスを洗い流すことが感染予防にはとても重要になります。また、咳・くしゃみが出る時は、他の人にうつさないためにマスクの着用も非常に有効で、感染予防としても効果がありません。

これからの季節は人ごみに出る機会が多くなりますが、体調管理には気を付けていただきたいと思います。



シニア世代の健康と福祉の祭典

『ねんりんピック富山2018』大会レポート

「夢つなぐ 長寿のかがやき 富山から」をテーマに、スポーツ・文化・健康・福祉の総合的な祭典「第31回全国健康福祉祭とやま大会」（愛称：ねんりんピック富山2018）が、平成30年11月3日から6日までの4日間にわたり、富山県10市4町1村を舞台に開催されました。

全国から一万人近い選手が集まり、宮城県からは強豪ぞろいの141人が18種目の競技に参加しました。

ここでは、世代や地域を超えて交流の絆を広げた大会の様子を紹介します。

パノラマ キトキト
ついで富山へー！

昨年11月2日、ねんりんピック富山2018の総合開会式及び卓球・水泳・ソフトバレー・ダンススポーツなど18種目の競技に参加するため、宮城県選手団総勢148名（役員7人含む）は富山県に向け出発しました。
出発当日は天気にも恵まれ、予定どおり富山県に到着するやいなや歓迎ムード一色で迎えられ、宮城県選手団は笑顔につつまれました。駅や街中の至る所で横断幕やポスター、のぼりなどが掲げられ、大会を盛り上げていました。
開催地の歴史や文化を選手に伝え、全国から集う選手を温かく歓迎することは、ねんりんピックの魅力のひとつです。

宮城県チーム上位入賞続出

宮城県チームは複数の種目において上位入賞を果たしました。

宮城県社協応援記

・サッカー（Hブロック）優勝
・健康マーじゃん準優勝
・水泳個人の部で銀・銅メダル
・ソフトバレー（第1位グループ、Fブロック）第3位
と輝かしい成績を残しました。参加した選手らは「とても和やかな良い大会でした」「初めてねんりんピックに出場しました。イベント・試合・観光と満喫しました！」「優勝はできなかったが、とても貴重な経験ができました」と話し、参加した選手にとっても有意義な大会となったようでした。

『シニアアスリートから教えられたもの』

富山県内各地で競技が行われたねんりんピックは、11月の開催ということもあり、各選手寒さの対策を万全に富山県入りしました。

しかし、いざ富山県に入ると晴天に恵まれ、少々暑さすら感じられた最高の天候でした。
今回のねんりんピックで印象深かったのは、アスリートとして年齢を感じさせない選手の姿でした。大会会場までの移動時や開会式では「楽しく参加できれば十分」と話していた選手たちですが、さまざまな競技がいざ始まれば、全ての選手が自分の力を限界まで発揮しようと頑張っていました。また、勝利を目指す男性選手の豪快さの裏に見える緻密な判断、自分の限界に挑む女性選手のしなやかな動き、そんなところに日頃の練習で積み重ねてきた努力が垣間見られるようでした。参加された選手の「楽しみたい」という気持ちや笑顔の背景には、「木の年輪のように積み重ねてきた努力というかけがえのないものがある」そう気が付いた瞬間、身近であった選手が宮城を代表するアスリートのように見えました。スポーツに向き合う選手の姿に、何か眩しい輝きのようなものを感じ、「いきがい」や「目標」を持つことの素晴らし

さを示しているようにも思えました。
試合が終わった後の相手を認め、讃え合う姿も宮城の代表に相応しいもので、選手同士の交流は、富山県立山の空気のごとく清々しいものでした。選手の応援のためさまざまな競技を訪れましたが、結果的にこちらが「頑張れ」と応援されたような、そんな気持ちで終えた4日間でした。

ねんりんピック紀の国
わかやま2019！

来年で32回目を迎えるねんりんピックは、和歌山県を舞台に11月に開催予定です。「あふれる情熱はじける笑顔」をテーマに、選手の皆さんは富山大会以上のプレーを魅せてくれることと思います。
来年の和歌山大会でも、宮城県選手団の活躍を期待しています！

（宮城県社協取材）



▲総合開会式 富谷市



▲宮城県選手団に送られた応援旗



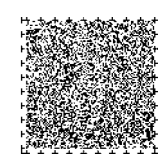
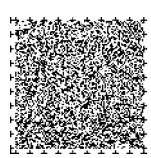
▲卓球 魚津市



▲ラグビー 魚津市



▲ダンススポーツ競技 氷見市





▲ [wara] 薪割り

キラリ仕事人

このコーナーでは福祉の職場で働くキラリ☆と光る人を紹介します



今号では、
一般社団法人こねくとで
精神保健福祉士の
資格を持って働く
芦田伸也(あしだしんや)さん
にお話を伺いました！

大学は体育会系でしたが、養護学校でのボランティアを通して人と関わる仕事に魅力を感じました。初めから資格取得を目指していたわけではなく、福祉の知識がほとんどない状態だったので、いろいろと勉強していた結果、資格の取得につながりました。

精神保健福祉士を目指したきっかけはありますか

平成27年5月から就労継続支援B型事業所、平成30年9月に就労継続支援A型事業所を立ち上げ活動していますが、私は法人の管理運営、会計、利用者の相談援助及び作業指導など全般的にこなしています。

B型事業所waraでは受託作業と自主製品のごぼう茶の販売、施設外就労として薪割などを行なっています。A型事業所ではいちご栽培を始めており、1月からはイチゴ狩りを楽しめます。また3月からは直売所と加工施設も兼ねてカフェを始める予定です。

現在の仕事の内容を教えてください

やりがいを感じる場面はどんなところですか

利用者の方には病気や障害によって失敗体験が多い方も多くいます。さまざまな作業を通して利用者の方のみなさんが自信を回復していく姿やお話を聞くと嬉しさを感じます。

大変さを感じる場面はありますか

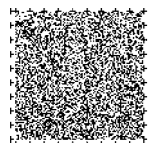
いちご栽培を始めるにあたり、農地法や都市計画法など福祉以外の分野に触れることがあり、今まで学んでこなかった部分なので大変でした。たくさんの方の協力を得て活動を始めることができました。

お仕事の魅力を教えてください

精神保健福祉士は根本的には人権擁護と社会復帰を担う精神医学や社会福祉学を基にした資格ですが、今、医療や福祉の分野に問わず活躍の場が広がっているように思います。さまざまな分野の専門職や地域の方などとお話できることが一番の魅力だと思います。

一般社団法人こねくと

平成27年2月に開設。同年5月より就労継続支援B型事業所waraを始め、ごぼう茶や漁網たわしの販売、薪割などを行っています。平成30年9月からは新たに就労継続支援A型事業所を立ち上げいちごの栽培を始め、いちご狩りや新鮮ないちごを使ったカフェなど活躍の幅を広げています。



【お問い合わせ先】

〒981-1243

名取市高館川上字八反3-5

電話番号 022-796-0813



▲丹精こめてつくったいちごはジュシーで美味しいですよ！



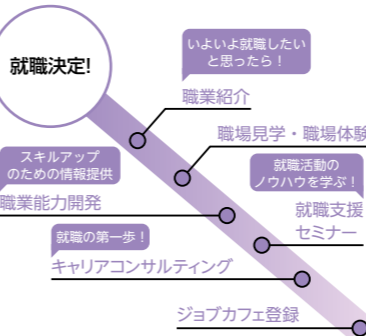
若者の就職をワンストップで応援します！

みやぎ若年者就職支援センター(みやぎジョブカフェ)

みやぎジョブカフェはこんなところですよ！

「ひとりで就活をするのは大変」「就職活動の具体的な方法が分からない」「就職活動に対する不安や焦りを解決したい」「そんな悩みをお持ちの方はいませんか。みやぎジョブカフェ(以下「ジョブカフェ」)は若者の就職を支援するため宮城県が設置した施設です。JR仙台駅前のパルコが入居しているビルの12階にあり、44歳以下の求職者や転職を考えている在職者の方々とを対象に、キャリアコンサルティングから職業紹介までワンストップで仕事探しの応援をしています。

ジョブカフェは、ワンストップであなたのしごと探しをサポートします！



まずはキャリアコンサルティングから

ジョブカフェにいられたら、まずは登録をしていただき、キャリアコンサルティングを行います。キャリアコンサルタントが就職活動に対する考え、悩みや不安についてじっくり話しを聞き、求職者一人一人にあった方法と一緒に仕事を探していきます。

キャリアコンサルティングを何回か行いながら、就職支援セミナーや職場見学、合同企業説明会などへの参加などを経て就職決定まで、キャリアコンサルタントが支援していきます。

在職中の方もご利用ください

ジョブカフェでは、在職中の方がご利用しやすいように、土曜日の開設のほか、水曜日に開設時間の延長を行っていますので、お気軽にご利用ください。

出前ジョブカフェも開催しています

そのほか、転職を考えている方向けに「在職者応援塾」といったセミナーなども開催しています。自分売り込んでいく方法や書類作成の仕方などを知ることができ、ぜひご利用ください。

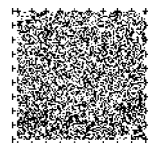
仙台市のジョブカフェに通えない方々のために、「出前ジョブカフェ」を各地で定期的に開催し、就職活動に役立つセミナーやキャリアコンサルティング(個別就職相談)などを行っています。平成30年度は大原町、大崎市、石巻市及び気仙沼市の4地域で実施しています。「仙台まではなかなか行けない」「ジョブカフェって何だろう?」と思っていた方は、ぜひご利用ください。詳しくはジョブカフェホームページをご覧ください。



▲ジョブカフェの様子

お問い合わせ先 **みやぎ若年者就職支援センター(みやぎジョブカフェ)**

〒980-8485
仙台市青葉区中央一丁目2-3仙台マークワン12F
電話：022-264-4510
e-mail：info@miyagi-jobcafe.jp
web：http://www.miyagi-jobcafe.jp
開設時間
平日(水曜日除く) 10時～18時30分
水曜日 10時～20時
土曜日 10時～18時
※日曜・祝日・年末年始は休館



被災地の知恵を発信！ 住民力×地域力で地域を活性化

東北学院大学地域共生推進機構 平成30年度CSW公開研究会

「災害公営住宅自治会等活動発表会」

少子高齢化やひとり暮らし世帯の増加などの社会環境の変化、核家族化や住民意識の変化により、住民同士のつながりの希薄化が指摘されています。地域の課題も多様かつ複雑化していることから、行政や従来の制度だけでそのニーズに応えることは難しく、それぞれの地域に適した住民と専門職とのネットワーク支援の仕組みづくりが求められています。

特に被災地域では、人口減少、高齢化、地域力の低下などが加速度的に進む傾向にあり、コミュニティの再構築が大きな課題です。地域の課題に取り組み、それぞれの工夫で活発に活動を展開している関係者が一堂に会し、県内の多様な地域課題に取り組む事例をおして地域力の可能性を知る機会として、東北学院大学と宮城県社会福祉協議会が共同で発表会を開催しました。



▲発表内容はパネルでも展示されました。

地域の調整役・CSW

「CSW（コミュニティソーシャルワーカー）」は、個人の悩みに寄り添い、地域で自立生活を送るためケアマネジメントによる具体的援助を提供しつつ、福祉コミュニティづくりを行うワーカーと言えます。「地域コーディネーター」などとも呼ばれ、社協をはじめとする多様な機関に配置される職名にもなっています。NPOや個人、またボランティア団体や町内会などの住民自治組織で、地域住民や関係者と協力し、地域の課題を自分たちの手で解決に近づけるために一緒に活動し、調整役（コーディネーター）として活躍する方々も、CSWと言えるでしょう。

東北学院大学（仙台市）では、CSWとしての役割を担う人材の育成とスキルアップに取り組んでいます。今年度は災害（復興）公営住宅（以下「公営住宅」という。）とその周辺地区など、被災地の自治会等活動発表会を県社協と共催。町内会や自治会関係者、公営住宅入居者など地域の課題に取り組む

方々、地域づくりを支援する行政担当、地域包括支援センター、NPO、社協などが集まりました。

住民力と地域力の可能性を探る

住まいが失われた被災地域、新たな生活の場となる多くの公営住宅や集団移転地区では、これまで長年かけて築いてきたコミュニティは解体し、新たな関わり場の場が作られようとしています。

10月19日に開催された「災害公



▲ホールでの発表。被災地域の課題に向き合う活動が報告されました。

営住宅自治会等活動発表会』では、コミュニティづくりの中心的役割を担う町内会・自治会などから、公営住宅入居者と地域の融合を目的とした行事の企画や、人口が激減した被災地区の新たな関係づくりなど、同じ地区の住民として被災者に寄り添いながら一緒に取り組む様子について。また入居者自身が立ち上げ、住民同士や外部支援者と協力し進めている見守り訪問活動や、世代を越えて誰もが集える場づくりとサロン運営の取り組みも報告されました。

支援者の立場からは、「コミュニティ活動を担う自治会や公営住宅入居者への支援、農作業をおとしたコミュニティづくりと世代間交流などの取り組み、支援者による地域内のつ



▲住民が日々行っている体操を参加者と一緒に体験しました。

ながりづくりや、地域の特色を活かすための工夫によって、豊かな人間関係の中で暮らしている事例が報告されました。

被災地や公営住宅周辺地区では、安心して暮らせる地域のために、さまざまな課題を「地域の力」での解決に向け、「コミュニティの強化と住民の力を生かした取り組みが展開されています。そこには、時には調整役に、時には推進役となつて活躍する地域の世話役をはじめとしたCSWの存在があります。

おらほのいいとご自慢 お知恵拝借×仲間づくり

発表後に設けられた「おらほのいいとご自慢」では、各事例について参加者からの質問や意見交換、発表者の悩みへ参加者からのアドバイスなど、多方面から「おらほ」 「私たちのところ・地域」をより良くするための知恵が集まり、たくさん仲間との交流が生まれています。

参加者からは「活動のきっかけづくりのヒントをもらった」「他の地区でも同じ悩みを抱えているこ

とが分かり、参考にしたい」などの感想と共に、発表者からは「当たり前と思っていたことがたくさんの方々に興味を持ってもらい、自分たちの活動はとても大事なことだと分かりました。これからの励みになります」という嬉しい言葉をいただきました。



▲意見交換や仲間づくりなどの交流で盛り上がりしました。

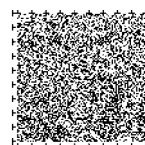
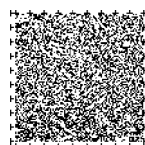
住民力と地域力の醸成を目指して

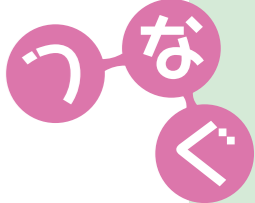
日々声かけなど何気ない小さな積み重ねから生まれたつながりから広く地域を巻き込んだ多世代による活動まで、どの事例も地域への愛着、自分たちが生活する地

区をより良い住みやすい地域にしたいという強い思いが感じられる発表でした。

被災地特有の課題を背景に、地域のさまざまな生活課題に向き合う取り組みからは、行政や専門職だけでなく、地域住民も一緒に考え、解決に向かって取り組む過程を繰り返して、気づきと学びを得ていくことが、「我が事」の地域づくり、「地域共生社会」につながることを再確認しました。

地域をより良くすることは、そこに住み生活する私たち自身の願いです。それぞれの目指す地域の姿に向けた仕組み作りを進めるには、時間と根気が必要です。これからの地域づくりには、さまざまな場面で要となるCSWの役割がますます重要になります。住民の力による地域課題の解決と地域力の向上、さらには被災地域の活性化につながるよう、より多くのCSWの視点を持った人づくりをこれからも地域のみなさんとともに進めていきたいと思





地域と学校の協働で地域を耕す ～富谷市立成田中学校×成田中学校ささえ隊の取組み～

昨今の少子高齢化や過疎化の進行、家族形態の変容などを背景に、「コミュニティにおける住民同士の関係性が希薄化し」「地域全体で子どもたちの成長を支える」という考え方が次第に失われてきています。今号では、子ども達の育成環境の総合的な充実と地域における防災活動を推進するため、地域と学校のつなぎ役（コーディネーター）の協力により地域と学校が協働している、富谷市成田地区の「地域と学校が繋がる防災活動」を紹介しします。



▲学校と地域が協働することで総合学習は実施されています。

地域と学校の橋渡し

富谷市成田地区町内会では、東日本大震災で、子ども達の笑顔や行動に元気づけられた経験から、中学生が持つ力への期待が高まりました。また、成田中学校では、子ども達の豊かな学びを創造するため、「地域と共にある学校づくり」を推進しており、「この両者の想いを繋ぐため、「成田中学校ささえ隊（以下『ささえ隊』）」が結成されました。「協力関係の醸成には、お互いの事情や課題を理解しあうことが不可欠。学校と地域を繋ぐ存在が必要だった。」その話すのは、ささえ隊でコーディネーターの増田恵美子（ますだえみこ）さん。増田さんは、過去に成田中学校のPTAとして関わっていた時に、学校の課題や多忙な状況が見えたことから、

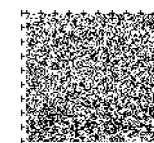
地域で支えていく体制が大切だと感じたそうです。現在ささえ隊には、町内会長を始め、交通安全協会や社会福祉協議会、学校教員、PTA役員も協力しており、学校と地域が一体となって取り組む体制が出来上がりがつつあります。

子ども達を地域の「宝」へ！

ささえ隊の結成を機に「防災を柱とした活動」について話し合いを重ね、成田中学校での総合学習「地域との防災活動」が始まりました。7月の活動で、1学年は福祉施設や商店などの地域の方々と共に福祉・職業体験、普段の暮らしの中で地域に支えられていることを学び、2学年は町内会の方々と一緒に地域活動を行い、自分が暮らす地域を改めて知る機会になりました。3学年は、2年間の経験を活



かした避難所運営の疑似体験から、地域の一員としての役割を体験します。3年間の活動を通して、子ども達が自分の役割や、地域の人達に支えられていることを実感することで「地域への愛着」が育まれています。「子ども達の素晴らしい反応・感想が大人の意識に繋がり、大人の意識の高さが子ども達の感性に届く。」と増田さんは話します。この良い循環を切らずに、大人と子どもが共に学び合える活動は、まさに「地域と共にある学校」ではないでしょうか。今後さらに醸成していく成田地区の活動を今後も注目したいと思います。



主人の理解と協力に支えられ 漢詩の4行書に挑戦



宮城県社協が開催した「第25回宮城県シニア美術展」書部門において最優秀賞を受賞。また、昨年11月3日から6日まで富山県で開催された「ねんりんピック富山2018美術展」書の部に出品し、「一般財団法人長寿社会開発センター理事長賞を受賞した久保内碧洋さん（仙台市青葉区中山在住・79歳）にお話を伺いました。

久保内さんは受賞した作品について「中国の詩人「杜甫」が詠んだ「杜少陵詩」の漢詩を書きました。今回は初めて4行書に挑戦しましたが、墨量、文字の変化・強弱、行間のバランスに苦勞し、50枚ほど書き込み仕上げたものなので思い出の強い作品です」と話してくださいました。

書道は子供のころから好きだったそう、子育てが一段落した50代から習い始め、5～6年前に書道展で見た作品の書体に興味を持ち、カルチャー教室に入門したそうです。久保内さんは「書道展に出品する作品は、朝早く起きて書くことが多いです。」



▲久保内さんと受賞作品（左側）

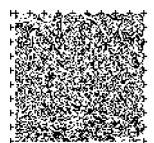
園庭の様子。広い園庭にはプールもあり、夏には元気な声で賑わいます。



◀クラフトの一例。いろいろな種類が体験できます。

☆自主事業☆
この他、自主事業として放課後等デイサービス事業所「なないろくれよん」、重度心身障害児者多機能型事業所「ふわり」を運営しております。

【お問い合わせ先】
宮城県七ツ森希望の家
黒川郡大和町吉田字上童子沢21
連絡先 022・345・3701



こんなこと
やっています
ここでは、宮城県社協の
事業をご紹介します

宮城県七ツ森希望の家

在宅の心身障害児者と家族のための保養の場です。豊かな自然に囲まれた環境で、大きなお風呂と温かい食事を堪能いただき、癒しの場としてご利用いただけます。

友・遊ななつもり

創作活動などの自由参加型レクリエーション付きの宿泊プランです。

ゆったりプラン

ゆったりとお風呂に入っただけの冬期の宿泊プランです。

いずれも要予約です。ご興味のある方は左記までご連絡ください。詳細はホームページにも掲載しておりますので、是非ご覧ください。